

9.3
全明全共斗
結成大会

明大全共斗から全国全共斗へ!
大学改革準備委員会粉碎!
安保粉碎—沖縄斗争勝利!

4U記念館

1969. 9. 3

明大二十一年の紛糾

東大・日大斗争の癡騒過程は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の癡騒過程は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

東大・日大斗争の實態は、所謂「自治風潮」の一端であつた。以前の如きは「自らの争い」であり、したがつて「自らの争い」である。

る批判が、彼の父兄記体制をちびかさない限り

、それらを一切積極的に彼らの体制内に受け入れ

でいい。しかし、その底を一步でも出でると

打しては、容赦ない暴力弾圧を加えるのである。

今日、「良説的」大學当局者と「民主的」日本共

産党は、大學立法の成立をもって行なわれたこの

惨案の前に、より露骨に自らの本を表わしたので

ある。

さらに、「異邦凶云」に示されたブルジョアジ
の姿勢は、とりわけ四年を前に、是が非でも成斗
的学生運動の正犯を子に、酒井像場と東南アジア
ア支配の實績を行ひ表の表れである。四年安
保自動昇長といつ政治的妥協を行ひつつも、沖縄
支配の危化、軍事力の躍進の拡大の彈圧手段によ
り一方の悪化は帝日主と支配体制も一とも具体

的な表われであるのみ。

しかし、これらの支配者の動向に力し、一講學

美成猿次四年安保機構と沖縄斗争勝利に向むた、
萬圓小説家集を企画実現の結成をもつて

いろ。

「編集しよ」我々はどのよくな寝若状況、アーヴ
ル・ヨアジーの「かなる渾沌も、我々の斗争の發
展の糧としないければならない」。

大學立法が、かつては、大變手段をもつて
日本を通過した今日、我々の「大學治安立法機構」と
の年月、より深化された权力集体に対する斗争
として意識化せなければならぬ。そのことは

オニオに、大學立法の内変化を、一大陸改革と
眞合となる名のもとに行なおうとする大學当局と
の井波の中から、今日の大學生がより露骨に表わさ
ざるを得ない階級性格を、世人厚人の認取とし
てして意識化せなければならぬ。そのことは
オニオに、大學学生人に自からの階級選択を行な
わしめることである。そして支配階級の道具をレ
ガリ、大學への能動的解体作業を我々の思想と
運動の中に定着させていくことである。

オニオ、四年を主要な政治的焦突として進めら
れてくるブルジョア政治への対決を、十一月、佐ト
訪木をもって仕上げようとする日本帝國主義
の東南アジアへの陰謀との対決、個別支配方
解体を押し進める中から、意識化されたアーヴ
ルの運動によって斯群していくことである。そ
れらのよいとつづける中で、全共斗運動を皇帝日
本公敵ガガトに向むた運動はとして同時に、帝
國者人民との複合組織一派族を形成する日本共
産黨の共同体としていくことである。